

## ロームシアター京都 10周年記念事業ラインアップ

ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）  
2025年10月1日 報道発表資料

[本リリースに関するお問合せ先]  
ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）  
広報担当：山本、儀三武  
電話：075-771-6051（10:00～17:00） FAX：075-746-3366  
E-mail：press@rohmtheatrekkyoto.jp  
<https://rohmtheatrekkyoto.jp/>

## ロームシアター京都10周年について

10周年を迎えるにあたって	2
10周年記念ロゴについて	2
10周年メインビジュアルについて	3

## 2025年度10周年記念事業

ダミアン・ジャレ×名和晃平『Planet [wanderer]』	4
ピナ・バウシュ ヴッパタール舞踊団『Sweet Mambo』	5
クラウド・ゲイト・ダンスシアター（雲門舞集）『WAVES』	6
プレイ！シアター for the 10th anniversary オープンデイ	7～8
プレイ！シアター for the 10th anniversary 《継承と創造》「三番叟づくし」	9
プレイ！シアター for the 10th anniversary 「饗宴！5台のピアノと5人のピアニスト」	10
2025年度全国共同制作オペラ 歌劇『愛の妙薬』	11
KAAT神奈川芸術劇場プロデュース『未練の幽霊と怪物—「珊瑚」「円山町」—』	12

## 2026年度10周年記念事業

Sound Around 006	13
<b>ロームシアター京都10周年×京都市交響楽団創立70周年共同プロジェクト</b>	
Project A/『オルフ：カルミナ・ブラーナ』	14
Project B/『ブリテン：春の交響曲』	14
『Have a Good Day!』	15

## 10周年記念事業 レポートリーの創造

### レポートリーの創造 ホープス

- ① 西田悠哉／劇団不労社 新作公演『暗黒の喜劇』、リクリエーション『MUMBLE —モグモグ・モゴモゴ—』 16
- ② 野村真人 新作公演『観光（仮題）』、リクリエーション『吉日再会』 17

### レポートリーの創造

- 和田ながら 新作公演 18

ダムタイプ『2020』	19
土田英生 作・演出 新作朗読劇	19

10周年連携事業	20～21
----------	-------

今回お知らせする内容は、2026年度プログラムの一部となります。

全体のラインアップは2026年1月頃に改めて発表いたします。

## ロームシアター京都10周年について

### 10周年を迎えるにあたって

#### 10周年記念事業ラインアップテーマ「つづきのはじまりはじまり」

ロームシアター京都は、2026年1月にリニューアルオープンから10年、新たな幕が開く節目を迎えます。テーマとした「つづきのはじまりはじまり」には、これまでの歩みと未来が交差する場として、そして皆さまと共に新たな物語を紡いでいくという期待が込められています。

2025年10月から2026年12月にかけて、さまざまな記念事業を展開します。まずは、世界最前線のダンスが続々と登場します。8年ぶりの来日となるヴッパタール舞踊団によるピナ・バウシュ最晩年の作品『Sweet Mambo』、そして、ダミアン・ジャレ×名和晃平『Planet[wanderer]』、クラウド・ゲイト・ダンスシアター（雲門舞集）鄭宗龍×真鍋大度『WAVES』と、国際的に活躍する振付家と日本のアーティストによる注目のコラボレーションが続きます。さらに、オペラ演出に初挑戦する杉原邦生による歌劇『愛の妙薬』、岡田利規が能の形式を応用して描く新作『未練の幽霊と怪物』と、全国の公共劇場とのネットワークを活かした企画も予定しています。

2026年1月10日・11日には、アニバーサリーを祝う特別プログラムを開催します。メインホールでは、一般公募で集まった演劇・ダンス・音楽・パフォーマンスなど幅広い団体が出演する「Anniversary Stage in メインホール」を行い、これまで当館に関わってくださった方々、これから共に創っていく皆様とともに盛り上げます。10日のサウスホールでは、狂言（能楽）、淡路人形芝居（人形浄瑠璃）、京舞（舞踊）、長唄（音曲）、早池峰岳神楽（神楽）が一堂に会し、芸能の豊かさとしらべを体感いただける「三番叟づくし」を上演します。11日には、当館所蔵の5台のピアノが初めて集結し、各回異なるテーマで気鋭のピアニストたちが演奏します。ノースホールでは、山城大督のディレクションのもと「記録・記憶」をテーマに体験型ブースやワークショップが並ぶ「KYOTO RECORDS」が開場し、館内ロビー等でもトークやマルシェ、ワークショップ、記念展示など、お祝い気分あふれる企画が展開されます。

2026年度には、リトアニアから初招聘となるヴァイヴァ・グライニテ（作家）、リナ・ラペリテ（作曲家）、ルギーレ・バルズジュカITE（演出家）による『Have a Good Day!』を上演します。10人のスーパーのレジ係が歌いながら日常の労働や消費社会をユーモラスかつ批評的に描く作品で、世界各地で高い評価を得ています。さらに、京都を拠点とするアーティストたちが次々と独創的な試みに挑みます。創立70周年を迎える京都市交響楽団とは、京都における音楽分野をリードする実演団体との協働を含む、2つのプロジェクトを実施。音を軸にした実験的なパフォーマンスシリーズ「Sound Around」では武田真彦、「レパートリーの創造」では和田ながら（したため）、西田悠哉（劇団不労社）、野村真人（レトロニム）が新作を手がけます。そして世界から注目を集めるマルチメディア・パフォーマンス・グループ<ダムタイプ>が、2002年以来となる新作『2020』をついに京都で初演します。本作は当初2020年3月に上演予定でしたが、コロナ禍により中止され、映像公開のみとなっていました。記念事業の掉尾を飾るのは、京都を代表する劇作家・演出家 土田英生による朗読劇です。京都のまちや人々を題材に創作され、出演者を一般公募しながら広く参加を呼びかけます。

この10年間の歩みを土台に、ロームシアター京都は一步一步、次の挑戦へ進んでいきます。新たな出会いと創造の先で、また新しい物語が生まれていくことでしょう。みなさま、ぜひ劇場でお会いしましょう。

小倉由佳子（ロームシアター京都プログラムディレクター）

### 10周年記念ロゴについて

10周年のお祝いと、未来への期待を込めたシンボルマーク。くるくるとまわる動的な展開で「劇場文化」を、明るいグラデーションカラーで「多様な可能性」を表現しています。

デザイン:ym design Co.Ltd.



ロームシアター京都  
10周年記念事業

## ロームシアター京都10周年について

### 10周年メインビジュアルについて

このまちには、鯨がいるんだよ

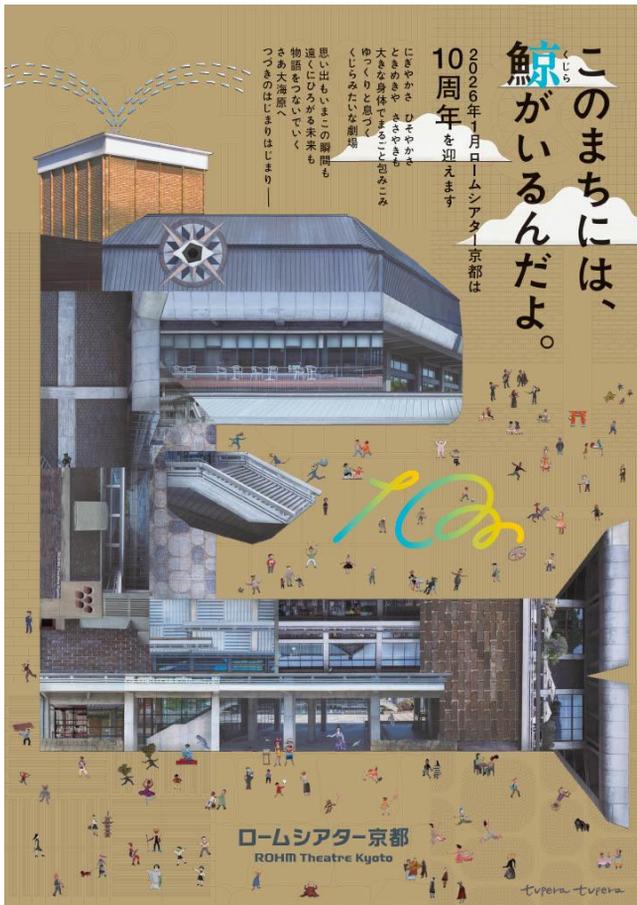
2026年1月ロームシアター京都は10周年を迎えます

にぎやかさ ひそやかさ ときめきや ささやきも

大きな身体でまるごと包みこみ ゆっくりと息づく くじらみtainな劇場

思い出も いまこの瞬間も 遠くにひろがる未来も 物語をつないでいく

さあ大海原へ つづきのはじまりはじまり——



誰かの何かのいつかの「つづき」が「はじまり」となる場に

岡崎公会堂から京都会館、そしてロームシアター京都へ。時代とともに姿を変えながら場の記憶を継承してきた本劇場は、伝統芸能から現代演劇やダンスまで、多彩な表現を生みつづける文化の場でありつつ、併設するブック&カフェ、周りを囲む公園、寺社、文化施設など、様々な人々が交差する生活の場として、「劇場」の在り方をつねに刷新しつづけてきました。

そんなロームシアター京都らしさにカタチを与えたのは、京都を拠点に活躍するtupepa tupepaです。俯瞰したロームシアター京都の建築の形の類似を起点に、京都の海をたゆたう「鯨＝クジラ」に肖り、劇場に宿るスピリットを具現化しました。奇しくも「鯨」には「京」の字が覗きます。多様な存在を包み、神話や芸術作品にも多く登場する創造と神秘の生物である鯨は、ロームシアター京都という変化しつづける有機体そのもの。建築家・前川國男の設計、そしてそれを継承した香山壽夫の想いも宿して、海がどこまでもつながっているように、世界へ、未来へと、京都の海から波を起こしつづけます。誰かの何かの「つづき」がいつでも「はじまり」となる、生きた場であることを願って。

※2026年より原画をロームシアター京都内に展示予定です。お楽しみに。

アート：tupepa tupepa（亀山達矢、中川敦子）

デザイン：北原和規（UMMM）

写真撮影：山地憲太

### プロフィール

#### tupepa tupepa | ツペラツペラ

亀山達矢と中川敦子によるユニット。絵本やイラストレーションをはじめ、TVや舞台、空間のアートディレクションなど、様々な分野で幅広く活動している。著書に「かおノート」（コクヨ）「やさいさん」（Gakken）「いろいろバス」（大日本図書）「うんこしりとり」（白泉社）など多数。海外でも多くの国で翻訳出版されている。NHK Eテレの工作番組「ノーゾーのひらめき工房」のアートディレクションも担当。絵本「しろくまのパンツ」（プロンズ新社）で第18回日本絵本賞読者賞、Prix Du Livre Jeunesse Marseille 2014（マルセイユ子どもの本大賞 2014）グランプリ、「パンダ銭湯」（絵本館）で第3回街の本屋が選んだ絵本大賞グランプリ、「わくせいキャベジ動物図鑑」（アリス館）で第23回日本絵本賞大賞を受賞。2019年に第1回やなせたかし文化賞大賞を受賞。

tupepa tupepa 公式WEBサイト：<https://tupepa-tupepa.com/>



photo shingo mitsuno

## 2025年度10周年記念事業

### ダミアン・ジャレ × 名和晃平 『Planet[wanderer]』

日程：2025年11月8日（土）19時開演、11月9日（日）15時開演 会場：サウスホール

世界で脚光を浴びる振付家ダミアン・ジャレと京都発の彫刻家名和晃平によるコラボレーション



© Rahi Rezvani

『Planet [wanderer]』は、2016年秋にロームシアター京都で世界初演を迎えた『VESSEL』\*に続く作品です。『VESSEL』が日本最古の書物『古事記』の二つの世界、すなわち「黄泉の国（死者の世界）」と「高天原（神の住処）」を描いたのに対し、『Planet [wanderer]』は三つ目の世界である「葦原中国」—私たちが生きる世界を舞台にしています。本作では人間が葦のように、力と脆さ、調和と生存、破壊と進化の間に揺れ動く様子が表現されます。副題の「wanderer」は、「Planet（惑星）」の語源となるギリシャ語に含まれる「さまようもの」という意味とも呼応しています。生者と死者の境界線で、人間の身体と宇宙世界の構成要素や重力の不可分な関係を描き出す本作は、日本の彫刻家と欧州の振付家の共同作業ならではの唯一無二の世界観を提示します。

\*『VESSEL』：2020年ローレンス・オリヴィエ賞最優秀新作ダンスノミネート  
本作は2020年・2022年にロームシアター京都にて上演予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により延期となり、このたび上演するものです。

#### プロフィール

##### ダミアン・ジャレ | Damien Jalet

振付家・ダンサー。ダンスをはじめ、視覚芸術、音楽、映画、舞台、ファッションなど、その活動は多岐にわたる。名和晃平との協働作品に、『VESSEL』（2016年）、映像作品『Mist』（2021年）、『Planet [wanderer]』（2021年初演）がある。近作では、2023年11月にアーティストのJR、作曲家トーマ・バンガテルとのコラボレーションにより、パリ・オペラ座のファサード足場を舞台に、アマンディーヌ・アルピソンをはじめとする154人のダンサーが踊る『Chiroptera』を創作。2024年9月には、名和晃平と再びコラボレーションし、THEATER 010（福岡）で『Mirage [transitory]』を上演した。映画では、ルカ・グアダニーノ監督によるリメイク版『サスペリア』（2018年）、ポール・トーマス・アンダーソン監督『ANIMA』（2019年）にて振付を担当。2022年、フランス芸術文化勲章オフィシエ章を受章。



© Rahi Rezvani

##### 名和晃平 | Kohei Nawa

彫刻家。1975年大阪府生まれ。京都を拠点に活動。2003年京都市立芸術大学大学院美術研究科博士課程彫刻専攻修了。京都芸術大学教授。2011年東京都現代美術館で個展「名和晃平・シンセシス」開催。2017年、ボンビドゥー・センター・メッセで開催された「ジャパノラマ」展に参加。2018年7月から2019年2月にかけて、パリのルーヴル美術館ピラミッドにて、日仏合同プロジェクト「ジャポニスム 2018」公式企画のひとつとして、彫刻作品《Throne》が展示された。2023年、フランス・セヌ川のセガン島に高さ25mの屋外彫刻作品《Ether (Equality)》を恒久設置。平成23年度（2011年）京都市芸術新人賞受賞。



©Michael Somoroff

#### チケット情報 発売中！

全席指定（税込）

一般（一階席）：7,000 円／会員特別価格6,300 円、一般（二階席）：6,000 円／会員特別価格 5,400 円、

ユース（25 歳以下）：3,000 円、18 歳以下：1,000 円

※未就学児入場不可。中学生以上推奨

※演出の都合上、開演後は場内にお入りいただけない時間があるほか、ご予約のお席にご案内できない場合がございます。

※18歳以下およびユース（25歳以下）チケットは、公演当日、受付にて年齢が確認できる証明書（学生証、免許証等）をご提示ください。

再製作（2023年）：ブルターニュ国立劇場、国立演劇センター

製作（2021年）：パリ国立シヤイヨー劇場

共同製作：ロームシアター京都、東京芸術劇場、パリ国立シヤイヨー劇場（フランス）、シャルルロワ・ダンス（ベルギー）、Sandwich Inc.（日本）、ブルターニュ国立劇場（フランス）、ザンクト・ベルテン祝祭劇場（オーストリア）、ルーアン・ノルマンディー・オペラ座（フランス）、ハンブルグ・カンブナーゲル劇場ドイツ）、ジュネーブ大劇場パレエ（スイス）、ナーゲルフス・スキア・プロダクション（ノルウェイ）—特別協力：株式会社グランマール、株式会社マツシマホールディングス

感謝：テオ・カシアーニ、ブラーブダー・ユン、ディディエ・デジャン、ファビエンヌ・オーカンFEDORA—ヴァン クリーフ&アーベル パレエ賞ノミネート（2020年）

欧州連合（EU）クリエイティブ・ヨーロッパ・プログラムによる共同出資

協力：京都芸術大学 Ultra\_Sandwich#14 #15 #16 #17、京都大学 竹中研究室

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

共同招聘：東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業） | 独立行政法人日本芸術文化振興会

協賛：ダンス リフレクションズ by ヴァン クリーフ&アーベル

後援：在日フランス大使館／アンステイチュ・フランセ

KYOTO EXPERIMENT 2025 提携プログラム

他地域での公演

東京公演 11月1日（土）～3日（月・祝） 東京芸術劇場 プレイハウス

## 2025年度10周年記念事業

### ピナ・バウシュ ヴッパタール舞踊団 『Sweet Mambo (スウィート・マンボ)』

日程：2025年11月21日（金）19時開演、11月22日（土）15時開演

会場：メインホール

愛する人々への惜別の歌――

ピナ・バウシュ最晩年の作品を、最愛のダンサーたちが踊り継ぐ！



©Karl-Heinz Krauskopf

ダンスと演劇が共生する〈タンツテアター〉の手法による、斬新かつ衝撃的な話題作を次々と発表し、20世紀のダンス・演劇界を変えた振付家、ピナ・バウシュ。

彼女ががけた最晩年の作品『Sweet Mambo』が、ついに日本初上演。8年ぶりの来日公演、そして京都では32年ぶりとなる待望のステージです。

飲びや渴望、誘惑、失望、悲しみ、そして優しさ。ピナ・バウシュと共に年月を過ごし、年齢や経験を重ねた初演時のダンサーたちが再び集う、愛に溢れたステージをお見逃しなく。

演出・振付：ピナ・バウシュ

[第23回（2007）京都賞 思想・芸術部門受賞]

出演：ヴッパタール舞踊団

世界初演：2008年5月30日シャウシュピールハウス（ヴッパタール・ドイツ）

#### プロフィール

#### ピナ・バウシュ | Pina Bausch

1940年ドイツ生まれ。フォルクヴァング芸術学校でクルト・ヨースに舞踊を学んだ後、1967年処女作『フラグメント』を発表。1971年ヴッパタール・バレエ団に振付家として招かれ、1973年芸術監督に就任。同団の名称を「ヴッパタール舞踊団（タンツテアター・ヴッパタール）」に改称し、ダンスと演劇との既成の概念を超えた斬新かつ衝撃的な話題作を次々に発表する。代表作として『春の祭典』、『カフェ・ミュラー』、『コンタクトホーフ』など、舞踊表現の多様性、可能性であらゆる世代の振付家に影響を与えた。「舞踊と演劇の境界線を打破し、舞台芸術の新たな方向性を示した振付家」として第23回（2007）京都賞 思想・芸術部門を受賞。2009年没。

#### ヴッパタール舞踊団 | Tanztheater Wuppertal Pina Bausch

各国のダンサーで構成されるヴッパタール舞踊団は1973年にピナ・バウシュが芸術監督に就任後、ダンスと演劇が共生する「タンツテアター」により世界に広く知られ、数々の国や都市と数多くの国際共同製作を行うなど、舞台芸術界に多大な影響をあたえた。ピナ・バウシュ逝去後も舞踊団は遺志を継ぎ精力的に活動を続け、新たな作品を創作・上演している。1986年初来日公演ツアー『コンタクトホーフ』に続き、『カーネーション Nelken』（1989年）、『山の上で叫び声が聞こえた』（1993年）を京都会館第2ホールで上演。『Sweet Mambo』は32年ぶりの京都公演となる。



©Wilfried Krüger

#### チケット情報 発売中！

全席指定

S席：12,000円／会員特別価格10,800円、A席：8,000円／会員特別価格7,200円、S席25歳以下：5,000円、18歳以下：無料（放課後かんげきプログラムより要事前申込）、クラウド・ゲイト・ダンスシアター（雲門舞集）『WAVES』（12/17）とのセット券：15,000円（S席） ※未就学児入場不可

#### スペシャルワークショップ

『Sweet Mambo』公演チケットをお持ちの方を対象にダンスワークショップを実施します。

講師：瀬山亜津咲（ピナ・バウシュ ヴッパタール舞踊団ダンサー） 日程：11月23日（日）①11:00～13:30 ②15:00～20:00

場所：ロームシアター京都 ノースホール 対象：①未経験者～初心者向け ②初中級者～プロ向け

※要事前申込・詳細はロームシアター京都WEBサイトをご覧ください。

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

特別協賛：公益財団法人稲盛財団

共同招聘：公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団（彩の国さいたま芸術劇場）

助成：文化庁文化芸術振興費補助金、

劇場・音楽堂等機能強化推進事業（劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業） | 独立行政法人日本芸術文化振興会

後援：ドイツ連邦共和国総領事館、ゲート・インスティトゥート・ヴィラ鴨川

他地域での公演

埼玉公演：11月27日（木）～30日（日） 彩の国さいたま芸術劇場

## 2025年度10周年記念事業

### クラウド・ゲイト・ダンスシアター（雲門舞集） 『WAVES』

日程：2025年12月17日（水）19時開演

会場：メインホール

#### クラウド・ゲイト・ダンスシアター（雲門舞集）鄭宗龍（チェン・ゾンロン）×真鍋大度 ダンスとテクノロジーの交差点



台湾を代表するコンテンポラリーダンスカンパニー、クラウド・ゲイト・ダンスシアター（雲門舞集）の最新作『WAVES』が日本に初上陸します。中国語圏で最初のコンテンポラリーダンスカンパニーとして創設され、50年以上の歴史を持つクラウド・ゲイト・ダンスシアターは、2020年に鄭宗龍が芸術監督に就任し、革新的な舞台を次々に発表しています。この『WAVES』は、アーティスト、コンポーザー、プログラマーの真鍋大度とのコラボレーションによって生まれた作品です。作品では、波の概念を身体から発せられる動的エネルギーとして探求し、ダンス・音楽・映像の融合により、“見えない身体を想像する”新たな身体感覚の世界へと誘います。2023年の初演以降、2024年のヴェネチア・ビエンナーレ（ダンス部門）でも高い評価を得ている本作をどうぞお見逃しなく。

振付・コンセプト：鄭宗龍（チェン・ゾンロン）

コンセプト・ビジュアル・音楽・プログラム：真鍋大度

#### プロフィール

#### クラウド・ゲイト・ダンスシアター（雲門舞集） Cloud Gate Dance Theatre of Taiwan

1973年、振付家の林懷民（リン・ファイミン）により、中国語圏で最初のコンテンポラリーダンスカンパニーとして設立。2020年、鄭宗龍（チェン・ゾンロン）がリンの後を継いで芸術監督に就任し、伝統に根ざした彼の創造的な作品と、デジタルとグローバル化した世界からの大胆で革新的な視点を融合させた。2023年、クラウド・ゲイト・ダンスシアターは50周年を迎えた。

#### 鄭宗龍（チェン・ゾンロン） | CHENG Tsung-lung

2020年に創設者である林懷民（リン・ファイミン）の後を継ぎ、クラウド・ゲイト・ダンスシアターの芸術監督に就任。国内外で数々の賞を受賞し、世界中のカンパニーとコラボレーションしている。近年の作品には、路上での生活の経験に基づいた作品で、上演回数100回を超える『十三声』（2016年）の他、アイスランドのミュージシャン、シガー・ロス（Sigur Rós）とのコラボレーションによる『Lunar Halo』（2019年）は、Telegraph紙の「Best of 2023 Dance」の1つに選ばれ、「インターネットが蔓延する21世紀を明るく、かつ物悲しく表現した作品」と評された。

#### 真鍋大度 | Daito Manabe

1976年東京生まれ。音楽家の両親のもと、音楽とプログラミングに親しんで育つ。DJやジャズバンド活動を経て、東京理科大学で学んだ際にXenakisに影響を受け、音楽生成における数学的アプローチの研究を始め、これが後の創作活動の基盤となる。2006年にライゾマティクスを設立。テクノロジーと身体表現の融合を探求し、リオ五輪閉会式のAR演出など革新的なプロジェクトへと発展。坂本龍一、Björk、Nosaj Thing、Squarepusher、Arca等との協働も多数行い、その独創的なAudio Visualパフォーマンスは、Sonar Barcelonaをはじめとする世界各地の国際フェスティバルで発表されている。近年は神経科学者との協働を通じて、培養神経細胞を用いたバイオフィードバックシステムなど、生命と機械を融合する作品を制作。現在はStudio Daito Manabeを主宰し、アート・テクノロジー・サイエンスを横断する表現を追求している。

#### チケット情報 発売中！

全席指定

一般：5,500円／会員特別価格 5,000円、ユース（25歳以下）：3,000円

18歳以下：無料（放課後かんげきプログラムより要事前申込）

ヴァパター舞踊団 ピナ・バウシュ『Sweet Mambo』（11/21～22）とのセット券 15,000円

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

共同招聘：ヨコハマダンスコレクション（横浜赤レンガ倉庫1号館）、北九州芸術劇場

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業） | 独立行政法人日本芸術文化振興会

台湾文化部、台北駐日経済文化代表処台湾文化センター

共同制作：国家表演芸術中心、国家两厅院、台中国家歌劇院、衛武宮国家芸術文化センター

他地域での公演

横浜公演 12月13日（土）KAAT神奈川芸術劇場

北九州公演 12月21日（日）J:COM北九州芸術劇場



Photo by LEE Chia-yeh



Photo by Akinori Ito

## 2025年度10周年記念事業

### プレイ！シアター for the 10th anniversary オープンデー

日程：2026年1月10日（土）～1月11日（日）

会場：全館



ロームシアター京都  
10周年記念事業

ロームシアター京都は2016年1月10日に京都会館からリニューアルオープンし、2026年1月に10周年を迎えます。節目となる1月10日・11日には「プレイ！シアター for the 10th anniversary」と題し、劇場全体が祝祭空間に変わります。大人から子どもまで楽しめる多彩なオープンデー企画が繰り広げられ、これまでの歩みとこれからの未来を体感しながら、一緒に10周年をお祝いしましょう！

#### メインホール

#### ロームシアター京都リニューアル10周年記念 Anniversary Stage in メインホール《両日》

一般公募で集まった、演劇・ダンス・音楽・パフォーマンスなど、幅広い団体が出演します。これまでロームシアター京都に関わってくださった皆様、そしてこれからを共に創ってくださる皆様と一緒に10周年の節目を盛り上げるステージをお送りします。

ロームシアター京都10周年・京都コンサートホール30周年記念事業

“いま”を考えるトークシリーズ Vol.27

#### 「劇場ってどんな場所？ ひとの集まる場所の未来」

小山田徹（京都市立芸術大学学長、アーティスト）× 藤原辰史（京都大学人文科学研究所准教授、歴史学者）× 鷺田清一（京都コンサートホール館長、哲学者） クロストーク

《1月10日（土）15～17時》

多様な角度から同時代の社会を知り、捉え直すためのトピックを挙げ、それにまつわるゲストを招き、複雑化し、混迷する現代を「いかに生きるべきか」その手がかりを探り、ともに考えるトークイベントです。今回は、スペシャルバージョンとして、鷺田清一×小山田徹×藤原辰史によるトークをお届けします。



左から 小山田徹、藤原辰史、鷺田清一

#### サウスホール

《継承と創造》「三番叟づくし」、「饗宴! 5 台のピアノと5 人のピアニスト」の詳細については、次ページ以降をご参照ください。

#### サウスホールホワイエ

#### ひびきのステージ

#### 京都コンサートホール アウトリーチ登録アーティストによるコンサート

《1月10日（土）14時15分～18時15分》

出演：DUO GRANDE（上敷領藍子（ヴァイオリン）・朴梨恵（ヴィオラ））[京都コンサートホール第1期登録アーティスト]  
福田彩乃（サクソフォーン）[京都コンサートホール第2期登録アーティスト]・多川響子（ピアノ）  
福田優花（ピアノ）[京都コンサートホール第3期登録アーティスト]  
宮國香菜（ピアノ）[京都コンサートホール第3期登録アーティスト]

1月11日には「饗宴! 5台のピアノと5人のピアニスト」に出演するピアニストによるトークとピアニストと調律師によるトークを開催します。

## 2025年度10周年記念事業

### プレイ！シアター for the 10th anniversary オープンデー

日程：2026年1月10日（土）～1月11日（日）

会場：全館

#### ノースホール

#### 山城大督ディレクション「KYOTO RECORDS」≪両日≫

アーティストの山城大督を企画ディレクターに迎え、「記録・記憶」をテーマにした体験型イベント「KYOTO RECORDS」が開場します。多彩なアーティストやクリエイターによる自由な発想のブースやワークショップが並び、子どもから大人まで楽しめる仕掛けが満載。体験の中には思い出や「記録・記憶」を持ち帰れるものもあります。劇場に足を踏み入れた瞬間、まるで「記録・記憶」のテーマパークに迷い込んだような時間を過ごせるはず。ひとりでも、ふたりでも、グループでも大歓迎。まさに10周年記念事業のテーマ「つづきのはじまりはじまり」を体現する、過去・現在・未来が交差する特別な2日間です。

#### プロフィール

#### 山城大督 | Daisuke Yamashiro

映像の時間概念を空間やプロジェクトへ応用し、その場でしか体験できない〈時間〉を作品として展開する。2006年よりアーティスト・コレクティブ「Nadegata Instant Party」を結成し、全国各地で作品を発表。また、山口情報芸術センター [YCAM]にてエディタールとして、オリジナルワークショップの開発・実施や、教育普及プログラムを多数プロデュース。近年は映像や音、光、家具を配置する上演型インスタレーションを制作している。近年の主な展覧会に、「Homō loquēns『しゃべるヒト』——ことばの不思議を科学する」国立民族学博物館（2022、大阪）、山城大督展「パラレル・トラベル」高鍋町美術館（2019、宮崎）など。第18回文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品受賞。Twelve Inc. 代表取締役。2021年～2025年ロームシアター京都「劇場の学校」メディアコース講師。



©MIYAKE Kotaro

#### その他

ホール以外のスペースでも催しが盛りだくさん！ 画材循環プロジェクト「巡り堂」（みずのき美術館、一般社団法人 ALL JAPAN TRADING、親谷茂）による“つながるお絵かきコーナー”が登場。また、「劇場文化」について考えるリレートークや、京都を拠点に活動する劇団ニットキャップシアターによるリーディング公演も実施。さらに、菅沼起一プロデュースによるアルタ・カベッラ（古楽器の管楽バンド）の演奏、恒例の「ちっちゃい焚き火（薪ストーブ）を囲んで語らう会」のスペシャルバージョンなど、みんなで楽しめるプログラムが目白押しです。

加えて、館内各所ではスタンプラリーを実施し、回遊しながらイベント全体を楽しめる仕掛けも用意。記念展示としては、京都会館からロームシアター京都への大規模リノベーションの歩みを辿る「建築展示」を開催します。過去の姿と現在の姿を比較しながら建築としての魅力を再発見できる内容です。あわせて、リニューアルオープン以来、数々の作品の発表の場となってきた劇場の歴史を振り返る「アーカイブ展示」も実施。過去の公演チラシやポスター、舞台上に登場した小道具などを交え、その軌跡を辿ることができます。

ホールの外にも広がる多彩なプログラムを通じて、ロームシアター京都10周年の歩みと未来を体感できる特別な2日間をお楽しみください。

2025年度10周年記念事業

プレイ！シアター for the 10th anniversary 《継承と創造》 「三番叟づくし」

日程：2026年1月10日（土）10時30分開演

会場：サウスホール

五穀豊穡を寿ぐ三番叟 多様な芸能が一堂に会する



ロームシアター京都 10周年のアニバーサリーにあたるこの日、様々な芸能の「三番叟」が一堂に会します。

「三番叟」は、天下泰平を祈る「翁」に続き演じられる五穀豊穡を寿ぐ舞です。狂言「三番叟(三番三)」のほか、人形浄瑠璃や歌舞伎でも「三番叟もの」とよばれる多くの演目があり、また日本各地のさまざまな郷土芸能においても祝言の舞として演じられています。本公演では狂言(能楽)、淡路人形芝居(人形浄瑠璃)、京舞(舞踊)、長唄(音曲)、早池峰岳神楽(神楽)と様々な「三番叟」演目を一挙上演します。

10周年の節目に際し、暮らしの中に根ざし、人々の祈りとともに受け継がれてきた「三番叟」という芸能を通して、いまに息づく芸能の豊かさとおもしろさを、どうぞご堪能下さい。

画：山本太郎《三番叟三》Sanbaso-three 2025

出演・プロフィール

茂山千五郎（狂言） | Sengoro Shigeyama

4歳の時に『以呂波』のシテにて初舞台。その後『三番三』『釣狐』『花子』『狸腹鼓』を披く。現在は「茂山狂言会」「Cutting Edge KYOGEN」、弟茂との兄弟会「傳之会」、落語家桂よね吉との二人会「笑えない会」を主催し、幅広い年代層へ狂言の魅力伝える。また上海京劇院・巖慶谷や川劇変面王・姜鵬とのコラボ公演など、他ジャンルとの共演も精力的に行う。平成28年十四世茂山千五郎を襲名。



淡路人形座（淡路人形芝居） | Awaji Ningyoza

500年の歴史を誇り、国指定重要無形民俗文化財でもある淡路人形浄瑠璃。最盛期の18世紀初めには40以上の座元が覇を競い、日本全国を巡業し各地に人形芝居を伝えた。大きな人形を遣った派手でケレン味のある演出が特徴。淡路人形座は1964年に江戸時代から続く吉田傳次郎座の道具類を引き継ぎ、興行を始めた。常設館で公演する一方、国内外への出張公演や後継者団体への指導、全国の伝統人形芝居保存会への協力など、伝統人形芝居の普及、発展のための活動も積極的に行っている。



杵屋勝七郎（長唄） | Katsushichiro Kineya

1960年京都生まれ。10歳で三味線をはじめ15歳で南座の三代目市川猿之助公演にて初舞台、同年杵屋寿浩の名前を許される。2010年二代目杵屋勝七郎を襲名。海外公演を含む年間百以上の公演をこなし、作曲活動、講演、後進の指導にあたる。舞台はもちろん、テレビ・ラジオにも数多く出演し、洋楽、落語等、他の芸術とも積極的交流。自らのリサイタル<としひろ会><二題の会>を主宰。一般財団法人杵勝会理事。



撮影 浅野功

岳神楽保存会（早池峰岳神楽） | Hayachine Take Kagura

岳神楽が伝承されている岳地区は岩手県花巻市大迫町の中心部から北東に18km。集落としては最も早池峰山の近くに位置している。岳地区には早池峰の神を奉る早池峰神社があり、岳神楽はその奉納神楽。昭和51年に「早池峰神楽」として、国指定重要無形民俗文化財(第1号)に指定され、平成21年にはユネスコ無形文化遺産に登録された。



井上安寿子（京舞） | Yasuko Inoue

1988年能楽観世流九世観世鏡之丞と京舞井上流五世家元井上八千代の長女として京都に生まれる。2歳より稽古を始め、四世及び五世井上八千代に師事。3歳で「四世井上八千代米寿の会」にて初舞台(上方唄「七福神」)。2006年井上流名取となる。2013年井上安寿子主宰の舞踊公演「葉々(ようよう)の会」を発足。2015年学校法人「八坂女紅場学園」(祇園女子技芸学校)の舞踊科教師になる。京都市芸術新人賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、京都府文化賞奨励賞などを受賞。公益社団法人日本舞踊協会会員。京都芸術大学舞台芸術学科非常勤講師。



チケット情報 発売中！

全席指定 一般：5,500円/会員特別価格5,000円、ユース(25歳以下)：3,000円、18歳以下：1,000円

主催：京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 令和7年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業

## 2025年度10周年記念事業

### プレイ！シアター for the 10th anniversary 「饗宴！5台のピアノと5人のピアニスト」

日程：2026年1月11日（日）第1部12時30分開演／第2部15時開演／第3部17時開演 会場：サウスホール

#### 5台のピアノが織りなす音楽の饗宴



2026年1月に10周年を迎えるロームシアター京都。これまで数々の公演を彩ってきた5台のピアノたちが、開館以来初めて一堂に集結します。各回違うテーマでのプログラムを3公演行います。様々なピアノの編成を、これからの日本音楽界を率いるピアニストたちの演奏によって堪能するコンサートです。

左から、金子三勇士(©Seiichi Saito)、中野翔太(©Taira Tairadate)、高木竜馬(©Yuji Ueno)、山縣美季(©Taira Tairadate)、小井土文哉(©井村重人)

#### 出演・プロフィール

##### 中野翔太 | Shota Nakano

1999年からジュリアード音楽院プレ・カレッジに留学。同音楽院を経て、2009年に同大学院を卒業。第15回出光音楽賞受賞。これまでにデュトワ指揮/NHK交響楽団、小林研一郎指揮/読売日本交響楽団、小澤征爾指揮/ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、アシュケナージ指揮/NHK交響楽団等と多数共演。

近年は、大植英次指揮/大阪フィルとガーシュウィン『ラプソディー・イン・ブルー』、ジョナサン・ノット指揮/東京交響楽団とシェーンフィールド『4つのパラブル』を共演、神奈川県民ホールで開催された『浜辺のアインシュタイン』に出演した他、坂本龍一氏の指名によりピアノとオーケストラの作品を演奏。圧倒的な技術に裏打ちされた、豊かな表現力と透明な音色が高く評価されている。

##### 小井土文哉 | Fumiya Koido

第87回日本音楽コンクール、第15回ヘイスティングス国際ピアノ協奏曲コンクール（イギリス）をはじめ、国内外の多数のコンクールで優勝を果たす。

2022年5月には英ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団のソリストとして英国ツアーを行い好評を博した。その他、国内でも読売日響、東京フィル、東響、日本フィル等と共演多数。英BBCラジオ3、NHKクラシック倶楽部やNHK-FM「リサイタル・パッシオ」等国内外のメディアに出演。桐朋学園大学音楽学部を首席で卒業。桐朋学園ソリストディプロマコースを経て、イタリア・イモラ音楽院を修了。現在同音楽院ポスト・ディプロマコースに在学中。深川美奈、須田真美子、ボリス・ペトルシャンスキーの各氏に師事。

##### 山縣美季 | Miki Yamagata

2002年鎌倉市出身。第89回日本音楽コンクールピアノ部門第1位。第44回ピティナ・ピアノコンペティション特級ファイナル入選。かながわ音楽コンクールでユースピアノ部門とピアノ部門の両方でコンクール史上初の同年二冠を果たす。これまで、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団などと共演。

第7期東京藝術大学宗次徳二特待奨学生。2022年シャネル・ビグマリオン・デイズ参加アーティスト。2022、2023年度ロームミュージックファンデーション奨学生。2023年度青山音楽財団奨学生。東京藝術大学卒業後、バリ国立高等音楽・舞踊学校第2課程ピアノ科に在籍中。Hortense CARTIER-BRESSON、Fernando ROSSANO、東誠三、日比谷友妃子の各氏に師事。

#### チケット情報 発売中！

一般：2,000円 / 会員特別価格1,800円、ユース(25歳以下)：1,000円

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市助成：文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業（劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業））独立行政法人日本芸術文化振興会協力：ジャパン・アーツ

##### 金子三勇士 | Miyuji Kaneko

1989年日本人の父とハンガリー人の母のもとに生まれる。6歳で単身ハンガリーに渡りバルトーク音楽小学校に入学。11歳でハンガリー国立リスト音楽院大学に入学。

全課程取得後に帰国し、東京音楽大学付属高等学校を経て東京音楽大学を首席で卒業、同大学院修了。2008年、バルトーク国際ピアノコンクール優勝の他、数々の国際コンクールで優勝。第22回出光音楽賞他を受賞。

これまでにゾルタン・コチシュ、小林研一郎、ジョナサン・ノット他と共演。国外でも広く演奏活動を行っている。

NHK-FM「リサイタル・パッシオ」に司会者としてレギュラー出演の他、テレビ、ラジオなど多数のメディアに出演。ドイツ・グラモフォンよりCD「フロイデ」他をリリース。キシマロシュ名誉市民。スタインウェイ・アーティスト。

##### 高木竜馬 | Ryoma Takagi

第16回エドヴァルド・グリーグ国際ピアノコンクールにて優勝及び聴衆賞を受賞し一躍世界的に脚光を浴びる。その他にも第26回ローマ国際ピアノコンクールなど7つの国際コンクールで優勝。これまでに、オスロフィル、ベルゲンフィル、ウクライナ国立フィル、ウィーン室内管、NHK交響楽団、大阪フィル、京都市交響楽団など国内外のオーケストラと共演。ウィーン楽友協会やシェーンブルン宮殿等の世界各地の著名なホールで演奏するなど広範な演奏活動を続けている。

NHK総合『ピアノの森』では雨宮修平メインピアニスト役で出演した他、映画『アナログ』やテレビ朝日『題名のない音楽会』、NHK Eテレ『青のオーケストラ』などメディアや音楽祭への出演多数。デビューアルバムとなる『Metamorphose』をリリースし好評を博す。京都市立芸術大学専任講師に就任し後進の指導にも当たっている。

#### トークイベント

14:00~14:30 登壇者：出演ピアニスト

16:00~16:30 登壇者：調律師、出演ピアニスト

会場：サウスホール ホワイエ

入場無料、申込不要

※終演時間により、開始時間が少々遅れる可能性があります。

2025年度10周年記念事業

2025年度全国共同制作オペラ 歌劇『愛の妙薬』

日程：2026年1月18日（日）14時開演 会場：メインホール

現代に生まれ変わる！とびきりハッピーでカワイイ ロマンティック・コメディ  
全国3都市ツアーこの秋開幕！

美人で聡明、ちょっと勝ち気な娘アディーナと、彼女に恋する純真無垢な青年ネモリーノが、偽の惚れ薬"愛の妙薬"によって結ばれるロマンティック・コメディ。テノール屈指の名アリア「人知れぬ涙」をはじめ、「受け取って、私のおかげであなたは自由」「この薬はなんでも治します」などの名曲が、コミカルでちょっと切ない恋物語を美しく彩ります。京都造形芸術大学（現・京都芸術大学）出身で、ギリシャ悲劇から歌舞伎、現代劇まで幅広いジャンルを手掛けてきた演出家・杉原邦生が初のオペラ演出に挑みます。指揮は、ベルカントオペラのスペシャリストとしても名高いセバスティアアーノ・ロッリ。日本&海外混成による新進気鋭の歌手陣とともに織りなす、最高にハッピーでカワイイ『愛の妙薬』が、いま幕をあける…！



演目：歌劇『愛の妙薬』  
（全2幕、イタリア語上演、日本語・英語字幕付き／新制作）  
作曲：ガエターノ・ドニゼッティ  
台本：フェリーチェ・ロマーニ  
指揮：セバスティアアーノ・ロッリ  
演出：杉原邦生(KUNIO)

出演  
アディーナ：高野百合絵  
ネモリーノ：糸賀修平  
ベルコレ：池内響  
ドゥルカマール博士：セルジオ・ヴィターレ  
ジャンネッタ：秋本悠希  
ダンサー：福原冠、米田沙織、内海正考、水島麻理奈、井上向日葵、宮城優都  
合唱：堺+京都公演特別合唱団  
管弦楽：京都市交響楽団

プロフィール

セバスティアアーノ・ロッリ | Sebastiano Rolli

1975年北イタリアのコッロノ生まれ。パルマのアリーゴ・ボーイト音楽院とミラノのジュゼッペ・ヴェルディ音楽院を経て、マルチェロ・コナティ、ピエールイジ・ペトロベリ等著名な音楽学者へ作劇法を師事。ベルカント・オペラへ精通した指揮者で、ベルガモのドニゼッティ劇場、ヴェネツィアのフェニーチェ劇場をはじめとするイタリア国内各地の劇場での活躍が目覚ましい。特にドニゼッティ、ベリニーニのスペシャリストとして知られる。その他「ナブッコ」、「ドン・カルロ」、「ファルスタッフ」等ヴェルディ作品、「セビリアの理髪師」、「チェネレントラ」等ロッシーニ作品の演奏も豊富。元アルトゥーロ・トスカニーニ財団及びミラノ・スカラ座財団楽譜解釈法並びに発声法教授。著作に「音楽劇の巨匠ジュゼッペ・ヴェルディ」、「ジュゼッペ・ディ・ステファアーノその個性」等、ダイナミック、ボンジョヴァンニ各レーベルにDVD、ブルーレイがある。



杉原邦生 | Sugihara Kunio

演出家、舞台美術家。KUNIO 主宰。2004年、プロデュース公演カンパニー “KUNIO” を立ち上げる。これまでの KUNIO の作品に『エンジェルス・イン・アメリカ 第1部「至福千年紀が近づく」 第2部「プレストロイカ」』、『Q1』バージョンを新訳で上演した『ハムレット』、上演時間10時間に及ぶ大作『グリークス』、大学の恩師でもある太田省吾作品を鮮烈に蘇らせた『更地』などがある。近年の主な演出作品は、COCOON PRODUCTION 2025『アンサンブルデビュー彼らにも名前はあー』、『モンスター』、東京芸術劇場 Presents『三人吉三郎初買』、PARCO PRODUCE 2024『東京輪舞』、KAAT 神奈川芸術劇場プロデュース『SHELL』、歌舞伎座『新・水滸伝』、ホリプロ『血の婚礼』、COCOON PRODUCTION 2022/ NINAGAWA MEMORIAL『パンドラの鐘』、さいたまゴールド・シアター最終公演『水の駅』など。第36回京都市府文化奨励賞受賞。



撮影：細野晋司

チケット情報 発売中！

全席指定

SS席：13,000円/会員特別価格 12,000円、S席：11,000円/会員特別価格 10,000円、A席：8,000円、B席：6,000円、C席：4,000円、D席：3,000円、S席25歳以下：5,000円、S席18歳以下：3,000円

※未就学児入場不可

※ユースおよび高校生以下のチケットご購入者は、公演当日、受付にて年齢が確認出来る証明書をご提示ください。

※演出の都合上、開演後は本来のお席にご案内できない場合がございます。

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市  
共同制作：東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）、フェニーチェ堺（公益財団法人堺市文化振興財団）  
助成：文化庁文化芸術振興費補助金（共同制作支援事業） | 独立行政法人日本芸術文化振興会  
特別協賛：日東薬品工業ホールディングス株式会社  
後援：イタリア大使館

他地域の公演

東京公演 11月9日（日）東京芸術劇場 大阪公演 11月16日（日）フェニーチェ堺

## 2025年度10周年記念事業

### KAAT神奈川芸術劇場プロデュース 『未練の幽霊と怪物—「珊瑚」「円山町」—』

日程：2026年3月21日（土）19時開演、3月22日（日）14時開演

会場：サウスホール

能のフォーマットを応用し、ついでた「夢」を幻視する、レクイエムとしての音楽劇。



現代演劇の言葉と身体、空間がおりなす可能性を開拓し、国際的に活躍する演劇作家の岡田利規（チェルフィッチュ主宰）が、現存する世界最古の舞台芸術「能」に触発されて創作する新作音楽劇。

目に見えないもの、霊的な存在がその想いを語る「夢幻能」の構造を借り、現代社会の巨大な構造の中で犠牲となった、膨大な未練の思いを残す存在をシテとして創作し、その姿を鮮やかに表出させる二本立ての公演です。

作・演出：岡田利規

音楽監督：内橋和久

出演：アオイヤマダ、小栗基裕 (s\*\*t kingz) /  
石倉来輝、七瀬恋彩、清島千楓 /  
片桐はいり

謡手：里アンナ 演奏：内橋和久

『未練の幽霊と怪物』（2021年）より 撮影：高野ユリカ

#### プロフィール

##### 岡田利規（作・演出） | Toshiki Okada

演劇作家、小説家、演劇カンパニー「チェルフィッチュ」主宰。

その手法における言葉と身体の特徴的な関係が注目される。2007年『三月の5日間』でブリュッセルの国際舞台芸術祭、クンステン・フェスティバル・デザールに参加。この初の海外公演以降、国内のみならず、アジア・欧州・北米・南米あわせて90都市以上で作品を上演し続けている。2016年からはドイツの公立劇場レパトリー作品の作・演出も継続的に務める。2020年『掃除機』（ミュンヘン・カンマーシュピール）および2022年『ドーナ（ツ）ツ』（ハンブルク、タリア劇場）でベルリン演劇祭（ドイツ語圏演劇の年間における“注目すべき10作”）に選出。

タイの現代小説をタイの俳優たちと舞台化した『プラータナー：憑依のポートレート』で第27回読売演劇大賞・選考委員特別賞を受賞。能のナラティブの構造を用いた『未練の幽霊と怪物 挫波／敦賀』（KAAT神奈川芸術劇場）で第72回読売文学賞・戯曲・シナリオ賞及び第25回鶴屋南北賞受賞。2021年には『夕鶴』（全国共同制作オペラ）で歌劇の演出を手がけた。

小説家としては、2007年に『わたしたちに許された特別な時間の終わり』（新潮社）を刊行。第2回大江健三郎賞受賞。2022年に『プロッコリー・レポリューション』（新潮社）で第35回三島由紀夫賞および第64回熊日文学賞を受賞。



©Kikuko Usuyama

##### 内橋和久（音楽監督・演奏） | Kazuhisa Uchihashi

音楽家。大阪府生まれ、ベルリン在住。ギタリスト、ダクソフォン奏者、コンポーザー、アレンジャー、プロデューサー。レーベル「イノセントレコード」主宰。インプロヴィゼーショントリオ/アルタドステイツ主宰。83年頃から即興を中心とした音楽に取り組み始め、国内外の様々な音楽家と共演。活動の領域は音楽だけにとどまらず、映像作品や演劇などの音楽も手掛ける。



©Leonid Selemenev

#### チケット情報 会員先行発売：10月12日（日） 一般発売：10月19日（日）

全席指定

1階席：6,000 円／会員特別価格 5,400 円、2階席：4,000 円／会員特別価格 3,600 円、ユース(25 歳以下)：3,000 円、18 歳以下：1,000 円

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

企画制作：KAAT神奈川芸術劇場

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業（劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業）） | 独立行政法人日本芸術文化振興会

他地域の公演

神奈川公演 2026年2月～3月 KAAT神奈川芸術劇場

兵庫公演 3月7日（土）・8日（日） 兵庫県立芸術文化センター

新潟公演 3月15日（日） りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館

## 2026年度10周年記念事業

### Sound Around 006

日程：2026年6月13日（土）、6月14日（日） 会場：ノースホール

音楽を軸とし、ジャンルや固定観念にとらわれない表現活動を探求するパフォーマンスシリーズの第6弾。今回のアーティストは、京都を拠点に活動し電子音響、パフォーマンスアート、現代美術、伝統工芸など幅広い領域を横断して作品を制作している武田真彦です。

#### プロフィール

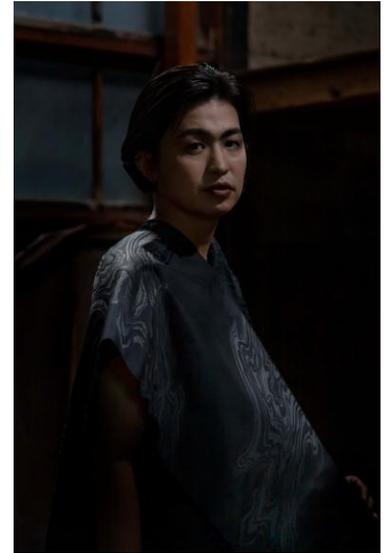
#### 武田真彦 | Masahiko Takeda

京都を拠点に活動する音楽家、アーティスト。同志社大学商学部卒業、Central Saint Martins Couture Tailoring 修了。家業であった西陣織「大樋の黒共」の廃業を背景に、残された素材・技術・歴史を継いでいく見立てを通じて、サウンドインスタレーション、パフォーマンスアート、現代美術、伝統工芸など幅広い領域における作品を制作。

主な作品として、フルアルバム「Mitate」（2019年）、サウンドインスタレーション作品「CYCLEE」（2020年）、音のプロダクト「Synclee」（2023年）、サウンドインスタレーション作品「WEAVING BLACK」（2025年）などがある。

2023年、香港メディアアートアワード FUTURE TENSEにおいて、サウンドインスタレーション作品「CYCLEE」がBEST POPULARITY AWARD最優秀賞を受賞。

武田真彦WEBサイト：<http://masahikotakeda.com>



©Tomoko Hayashi (atelier now/here)

#### これまでのSound Around

Sound Around 001 いまいけぶろじえくと（2021年）

Sound Around 002 正直（2022年）

Sound Around 003 日野浩志郎（2023年）

コラボレーションアーティスト：古舘健、藤田正嘉、谷口かなな、前田剛史

Sound Around 004 荒木優光（2024年）

Sound Around 005 細井美裕（2025年）

## 2026年度10周年記念事業

### ロームシアター京都10周年×京都市交響楽団創立70周年共同プロジェクト

京都市音楽芸術文化振興財団に属する、ロームシアター京都と京都市交響楽団の節目を寿ぐ共同プロジェクト2事業（Project A、Project B）に京都市交響楽団のタイトルホルダーの指揮者2名を据え実施します。

京都市における音楽・芸術分野をリードする実演団体と運営施設を持つ全国的にも稀有な団体としての強みを活かし、市内外に充実した内容を発信します。

#### Project A / 『オルフ：カルミナ・ブラーナ』

日程：2026年8月23日（日） 会場：メインホール

少年合唱団、公立高校から大学までの音楽教育機関、そしてプロのオーケストラまで運営する京都市の団体がロームシアター京都に集う特別な一日。

「All KYOTO」が一堂に会し、合唱作にも定評のある首席客演指揮者ヤン・ヴィレム・デ・フリーントのパッション溢れるタクトの下、「京都」だからこそできるモニュメンタルな公演が実現します。

未来の音楽の担い手たちとプロフェッショナル集団が共に創り上げる「京都の芸術の粋」に触れる充実のひとつとき。

指揮：ヤン・ヴィレム・デ・フリーント（首席客演指揮者）

管弦楽：京都市交響楽団、京都市立芸術大学

合唱：京響コーラス、京都市立芸術大学、京都市立京都堀川音楽高校

児童合唱：京都市少年合唱団

独唱：安井陽子（ソプラノ）

藤木大地（テノール[カウンターテナー]）

大西宇宙（バリトン）

曲目：オルフ：カルミナ・ブラーナ、ほか

#### Project B / 『ブリテン：春の交響曲』（2026年12月4日【ブリテン命日：没後50年】）

日程：2026年12月4日（金） 会場：メインホール

プロジェクト第2弾のテーマは『Professional×Professional 劇場とアーティストで化学反応』。

「12月4日」はベンジャミン・ブリテンの「命日」であり、没後50年という「節目」の日でもあります。

そして、この「特別な年、特別な日」に、哀悼の意も込めた舞台で合唱団に選んだのはプロフェッショナル集団である「東京混声合唱団」。

桂冠指揮者・大友直人とともに練り上げる一層の高みに至る芸術。

「京都の舞台芸術の殿堂」として気を吐くロームシアター京都の面目躍如たる企画をお楽しみください。

指揮：大友直人（桂冠指揮者）

管弦楽：京都市交響楽団

独唱：小林沙羅（ソプラノ）

金子美香（メゾソプラノ）

笛田博昭（テノール）

合唱：東京混声合唱団

児童合唱：京都市少年合唱団

曲目：ブリテン：春の交響曲op.44、ほか

## 2026年度10周年記念事業

### 『Have a Good Day!』

日程：2026年9月下旬予定 会場：サウスホール



Modestas Endriuška

リトアニア出身の作家・ヴァイヴァ・グライニテ、作曲家・リナ・ラペリテ、演出家・ルギーレ・バルズジュカイトによる現代オペラ。きわめてミニマルな演出で、観客の想像力を喚起させながら、労働や消費の現場を舞台化することで、私たちの社会の在り方を問い直すと同時に、人間の存在の多面性を照らし出します。

作詞：ヴァイヴァ・グライニテ

作曲：リナ・ラペリテ

演出：ルギーレ・バルズジュカイト

#### プロフィール

**ヴァイヴァ・グライニテ | Vaiva Grainytė** (1984年生まれ、リトアニア拠点) 作詞

テキストをベースに、ジャンルを横断する演劇作品や出版活動を展開している。作家、劇作家、詩人。詩的な解釈を通して日常的な社会問題を逆説的かつ異化的なものへと変換する。

**リナ・ラペリテ | Lina Lapelytė** (1984年生まれ、リトアニア拠点) 作曲

音楽をベースとし、ポップカルチャーやジェンダー・ステレオタイプ、ノスタルジーと戯れる。彼女の作品は、歌を中心とした集団的で感情に訴えるパフォーマンスを特徴とし、訓練を受けた／受けていない出演者を巻き込みながら、脆さや沈黙の問題を問い直す。

**ルギーレ・バルズジュカイト | Rugilė Barzdžiukaitė** (1983年生まれ、リトアニア拠点) 演出

フィルムメーカー、舞台演出、ビジュアル・アーティスト。遊戯的な方法で人間中心的な思考を揺さぶりながら、現実を異なる角度から照らし出す。

このリトアニア出身の女性3人のコラボレーションでは、ドキュメンタリーとフィクション、現実と詩、そして演劇・音楽・美術の重なり合いに特別な関心を寄せている。

3人がはじめて協働したのが、今回、上演する『Have a Good Day!』(2013年初演)で、10人のレジ係とスーパーの音、ピアノによる現代オペラ・パフォーマンスで、現在も世界各地で上演が続いている。

2作目の協働作である『Sun & Sea』は、リトアニア館として2019年の第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展に出品され、金獅子賞(最優秀ナショナル・パビリオン賞)を受賞した。

## 2026年度10周年記念事業

### 「レパトリーの創造」とは

ロームシアター京都が、2017年度から取り組んでいるプログラムで、公立劇場が主体的に作品制作に取り組み、劇場のレパトリー演目として時代を超えて末長く上演されることを念頭にプロデュースしています。また、作品創造のプロセスを通じて、俳優、ドラマトゥルク、制作者等の専門家人材の育成や観客育成のための関連プログラムを企画し、レパトリーの創造から各地域における劇場文化を作ることを目指します。

2026年度は、以下の3組のアーティストによる作品を上演します。

レパトリーの創造 ホープス① 西田悠哉

レパトリーの創造 ホープス② 野村真人

レパトリーの創造 和田ながら

### レパトリーの創造 ホープス① 西田悠哉

#### 劇団不労社 新作公演『暗黒の喜劇』

#### リクリエーション『MUMBLE —モグモグ・モゴモゴ—』

日程：2026年10月予定

京都を拠点に活躍する若手演出家と世界を目指す、「レパトリーの創造 ホープス」。西田悠哉／劇団不労社の新作『暗黒の喜劇』のワーク・イン・プログレスを2025年度に実施、2026年度に作品を上演します。

今作では、陰謀論をはじめとする政治的・宗教的思想や信条に着目し、混沌と不寛容と分断の渦巻く世界の在り様をダークに照らし出します。

あわせて、『MUMBLE —モグモグ・モゴモゴ—』（2023年初演）のリクリエーションとワーク・イン・プログレスを予定。雪深い山里の閉鎖コミュニティを舞台に、〈家族〉と〈食〉をキータームとして歪な人間像を描き出し、「第2回 関西えんげき大賞」優秀作品賞・観客投票ベストワン賞を受賞した本作。ぜひご注目ください。

#### 劇団不労社 新作公演『暗黒の喜劇』ワーク・イン・プログレスの公開

※ワーク・イン・プログレスとは、上演作品の完成前の制作途中の過程を公開すること、試演。

日程：2026年1月31日（土）18時、2月1日（日）14時

会場：ノースホール

申込受付期間：11月22日（土）～12月15日（日）

一般参加定員：各回30名

※試演後、フィードバック・ディスカッションの時間がございます。

※フォームにて申込。詳細は、ロームシアター京都WEBサイトをご覧ください。

#### プロフィール

#### 西田悠哉 | Yuya Nishida

1993年東京都生まれ富山県育ち。劇団不労社代表。劇作家・演出家。アートコミュニティスペースKAIKA芸術監督。

ハイカルチャーとローカルチャー、恐怖と笑いをハイブリッドに掛け合わせながら、現代社会に潜む歪な人間模様を滑稽かつグロテスクに描く作劇を特徴とする。京都大学大学院在学。創作と並行して、イギリスの劇作家ハロルド・ピンターの劇作術についての研究を行う。2021年より無隣館4期を経て青年団所属。2024年より“関西舞台芸術シーンの再興/再考”を軸とした運動体「西陽〈ニシビ〉」を始動させ、プロジェクトメンバーとして活動する。主な受賞歴として、「関西演劇祭2021」ベスト演出賞、「若手演出家コンクール2022」優秀賞、「演劇人コンクール2024」最優秀演出家賞・観客賞など。セゾン文化財団2025年度セゾン・フェロー。



©Shun Ujita

#### 劇団不労社

2015年に代表の西田悠哉が大阪大学を母体に旗揚げ。2022年よりKAIKAアソシエイトカンパニー。近年はムラ社会的な閉鎖コミュニティを舞台とした「集団暴力シリーズ」に取り組むほか、実験的枠組として「FLOW series」を展開。2023年度「ロームシアター京都×京都芸術センター U35 創造支援プログラム“KIPPU”」にて上演した『MUMBLE —モグモグ・モゴモゴ—』の成果より、「第2回 関西えんげき大賞」優秀作品賞・観客投票ベストワン賞、「第1回 日本みどりのゆび舞台芸術賞」HOPE賞など受賞。

劇団不労社WEBサイト：<https://www.furosy.com/>

## 2026年度10周年記念事業

### レパトリーの創造 ホープス② 野村真人

#### 新作公演『観光（仮題）』 リクリエーション『吉日再会』

日程：2026年10月下旬から11月上旬予定

京都を拠点に活躍する若手演出家と世界を目指す「レパトリーの創造 ホープス」。2026年度の野村真人による新作の上演に向けて、2025年度にワーク・イン・プログレス公演を行います。

あわせて、2024年に大阪で初演した『吉日再会』のリクリエーションを予定。介護者と患者、父親と息子という役割を行き来し、多層的なロールプレイを通して、人と人、親子の関係性やコミュニケーションのあり方をささやかに問う本作。リクリエーションでどう生まれ変わるのか、ぜひご期待ください。

#### 野村真人 ワーク・イン・プログレス公演

日程：2026年3月24日（火）、3月27日（金） 会場：ノースホール

#### プロフィール

##### 野村真人 | Masato Nomura

1991年生まれ。京都在住。2016年より演出家として活動。レトロニムのメンバー。ひとの精神のありようや経験をモチーフとする上演や映像、テキストを劇場内外で制作・発表している。人・場所・環境の現実的な関係に演劇を引用することを起点に、近年では青森県津軽地方での墓にまつわるフィールドワークや、精神医療や高齢者福祉施設でのリサーチをベースとした作品・プロジェクトに取り組んでいる。また、村川拓也作品やタニノクロウ作品に、俳優や演出助手としても参加。2024年度 ACYアーティスト・フェロー。利賀演劇人コンクール2018優秀演出家賞。

ポートフォリオサイト：<https://masatonomura.jimdofree.com/>

#### レトロニム

瀬戸沙門(俳優)、武内もも(陶芸家)、野村真人(演出家)からなるコレクティブ。劇団速度(2016～2021)を前身に、集まり方を変えることで2022年からレトロニムとなる。観客や観客席といった、各メンバーの関心ごとをキーワードに集まり、フリーペーパーの団体誌「スーパーラックス」の発行や企画展のキュレーション、グループ展の開催やパフォーマンスの制作などを行っている。

レトロニムWEBサイト：<https://theatre-sokudo.jimdofree.com/about-1/>



Photo by shimizu kana

## 2026年度10周年記念事業

### レパトリーの創造 和田ながら

#### 新作公演

日程：2026年12月上旬予定      会場：ノースホール

男性は、「男性」であるということを、どのようにやりくりしているのだろう。さまざまな「男性」へのインタビューを出発点に、その問いへとむかう演劇作品。京都を拠点に多方面に活躍する演出家・和田ながらによる新作です。

#### プロフィール

#### 和田ながら | Nagara Wada

演出家。「したため」主宰。京都造形芸術大学芸術学部映像・舞台芸術学科卒業、同大学大学院芸術研究科修士課程修了。演技という行為に強い関心を持ち、テキストやモチーフを接写するように読み解いていくことで、作品ごとに固有の演技の文法の構築をめざしている。美術、写真、音楽、建築、ダンスなど異なる領域のアーティストとの共同作業も多数。主な作品に、多和田葉子の小説を舞台化した『文字移植』『祖母の退化論』、妊娠・出産を未経験者たちが演じる『擬娩』、dot architectsとの共同演出『うみからよどみ、おうみへバック往來』、やんつーとのコラボレーション《Great Emptiness》など。2018年より多角的アートのスペース・UrBANGUILDのブッキングスタッフ。2019年より地図にまつわるリサーチプロジェクト「わたしたちのフリーハンドなアトラス」始動。2020年よりNPO法人京都舞台芸術協会理事。セゾン文化財団2021-22年度、2025年度セゾン・フェロー。2025年よりKYOTO EXPERIMENTアシスタントディレクター。



Photo by Yuki Moriya

#### これまでのレパトリーの創造

市原佐都子/Q 『キティ』（初演2025年）

高谷史郎（ダムタイプ）『Tangent（タンジェント）』（初演2024年、再演2024年）

松田正隆 作・演出 『文化センターの危機』（初演2023年）

市原佐都子/Q 『妖精の問題 デラックス』（初演2022年、再演2022年）

松田正隆 作・演出 『シーサイドタウン』（初演2021年、再演2023年）

ジゼル・ヴィエンヌ、エティエンヌ・ビドー＝レイ 『ショールームダミーズ #4』（初演2020年、再演2021年）

木ノ下歌舞伎 『糸井版 摂州合邦辻』（初演2019年、再演2020年、再々演2023年）

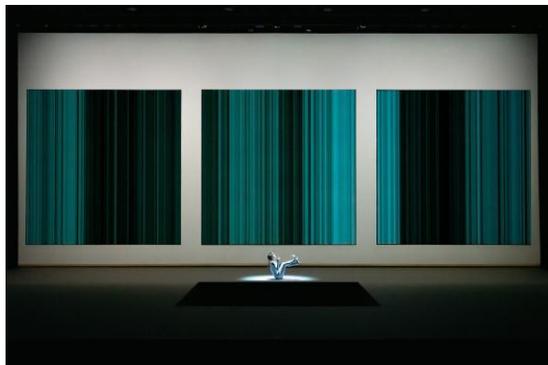
木ノ下歌舞伎 『心中天の網島ー 2017 リクリエーション版ー』（初演2017年）

## 2026年度10周年記念事業

### ダムタイプ 『2020』

日程：2026年12月

会場：サウスホール



撮影：福永一夫

世界が注目し続ける伝説のマルチメディア・パフォーマンス・グループ<ダムタイプ>。

『2020』は、ダムタイプにとって2002年以後の新作パフォーマンスであり、当初は2020年3月にロームシアター京都サウスホールで初演される予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となり、同年10月には同会場にて『2020』記録映像上映会が開催されました。

そして今回、ダムタイプの拠点である京都にて、ついに待望の初演を迎えます。

### プロフィール ダムタイプ | Dumb Type

1984年の活動開始以来、複数のアーティストが参加する集団によるコラボレーションで作品を制作。プロジェクト毎に参加メンバーが変化し、ゆるやかな共同体により制作される作品は、既成のジャンルにとらわれない、あらゆる表現の形態を横断するマルチメディア・アートとして国内外で発表されている。主なパフォーマンス作品には、『pH』（1990年初演）、『S/N』（1994年）、『OR』（1997年）、『memorandum』（1999年）、『Voyage』（2002年）等がある。パフォーマンスと並行して、インスタレーション作品の制作にも取り組み、2018年には、個展「DUMB TYPE | ACTIONS + REFLECTIONS」が、ボンビドゥー・センター・メッセ（フランス）で、その後2019年から2020年にかけて東京都現代美術館で開催された。2022年、ダムタイプは坂本龍一を新メンバーに迎え、ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館で新作インスタレーション《2022》展示。同年、ハウス・デア・クンスト（ミュンヘン、ドイツ）で個展。2023年ヴェネチア・ビエンナーレ帰国展「ダムタイプ | 2022: remap」をアーティゾン美術館（東京）で開催など、国内外で活動を続けている。

### 土田英生 作・演出 新作朗読劇

日程：2026年12月20日（日）

会場：サウスホール

京都拠点の劇団「MONO」の土田英生が作・演出を担う新作朗読劇です。京都の街を舞台に繰り広げられる物語。公演に先駆け、年齢・経験問わず出演者の一部を公募します。

#### プロフィール

#### 土田英生 | Hideo Tsuchida

劇作家・演出家・俳優 / MONO代表。愛知県出身。1989年に「B級プラクティス」（現MONO）結成。1990年以降全作品の作・演出を担当する。1999年『その鉄塔に男たちはいるという』で第6回OMS戯曲賞を受賞。2001年『崩れた石垣、のぼる鮭たち』（文学座）で第56回芸術祭賞優秀賞を受賞。2003年文化庁の新進芸術家留学制度で一年間ロンドンに留学。劇作と並行してテレビドラマ・映画脚本の執筆も多数。その代表作に、映画『約三十の嘘』、『初夜と蓮根』、テレビドラマ『崖っぷちホテル!』『斉藤さん』など。2020年公開の映画『それぞれ、たまゆら』では監督・脚本を担当した。

MONO WEBサイト：<https://c-mono.com/>



## ロームシアター京都10周年連携事業



2026年1月、ロームシアター京都は開館10周年を迎えます！ 記念すべき一年を迎えるにあたり、これからのロームシアター京都を一緒に盛り上げてくださる、みなさまによる催物を募集しています。

対象期間：

2025年10月31日（金）～2026年12月31日（木）

対象となる催物：

ロームシアター京都のいずれかのホールで実施される事業のうち、次に挙げる（1）～（3）のすべてに該当する事業

- （1）幅広い市民が鑑賞又は参加することができる催物（関係者のみの催物は不可）
- （2）次の（ア）～（ウ）のいずれにも該当しないもの
  - （ア）特定の政治活動や宗教活動に関すると認められるもの
  - （イ）暴力団の活動に関すると認められるもの
  - （ウ）法令や公序良俗に反すると認められるもの
- （3）2025年10月31日（金）～2026年12月31日（木）の間に実施予定の催物

連携事業の特典：

- （1）Webサイト・情報誌・公式SNS等、当劇場の広報媒体を通じて連携事業の内容を広報・宣伝します。
- （2）劇場内の「連携事業特設チラシラック」・自主事業の実施会場にて、対象となる催物のチラシを配架します（チラシに10周年連携事業ロゴが記載されていることが配架の条件となります）。
- （3）当館へのチケット販売委託にかかる「公演登録料」が無料となります。
- （4）ノースホールに関しては、通常の貸館受付に先立ち、ホールの予約が可能となります。

例) 2026年10月25日にノースホール利用希望の場合

通常 | 2025年10月1日より予約可能

連携事業 | 2025年4月1日より予約可能

※対象となる催物のチラシ等に、ロームシアター京都10周年連携事業であることを示す名称やロゴの掲載をお願いします。

※応募いただいた時期によって、掲載できる広報媒体が少なくなる、貸館受付開始前に施設予約ができない等、特典の内容に変更が生じます。

応募締め切り：2026年11月30日（月）

応募方法および審査及び通知等の詳細については、ロームシアター京都公式WEBサイトをご参照ください。

<https://rohmtheatrekkyoto.jp/join/134125/>

## ロームシアター京都10周年連携事業

### ロームシアター京都10周年連携事業一覧（2025年9月時点）

開催日程	ジャンル	公演名	主催者名
2025年10月31日（金）	音楽	Rohm Music Foundation Ken Sato Memorial Concert Vol.5 ～世界の巨匠が奏でる極上のモーツァルト～	公益財団法人 ローム ミュージック ファン デーション
2025年11月1日（土） ～11月3日（月・祝）	演劇	ゆうめい10周年全国ツアー公演『養生』	ゆうめい
2025年11月24日（月・祝）	音楽	同志社交響楽団OB・OG有志による 100周年記念演奏会	響100_オーケストラ
2025年12月7日（日）	舞踊	京都バレエ団公演「くるみ割り人形」全幕	一般社団法人京都バレエ団
2025年12月21日（日）	音楽	京都市交響楽団 オーケストラ・ディスカバリー2025 第3回「時代を超えて踊る踊る」	京都市交響楽団（公益財団 法人京都市音楽芸術文化振 興財団）、京都市
2025年12月21日（日）	音楽	エバリーコンサート2025 in 京都	エバリー音楽事務所
2026年3月28日（土）	音楽 舞踊	加藤訓子 & 中村恩恵 『PSAPPHA（プサッファ）』	特定非営利活動法人芸術文 化ワークス
2026年3月29日（日）	音楽	京都市交響楽団 オーケストラ・ディスカバリー2025 第4回「歌と楽器と音楽と」	京都市交響楽団（公益財団 法人京都市音楽芸術文化振 興財団）、京都市
2026年2月 ※詳細決定次第告知予定	演劇	ニットキャップシアター 『土曜日の過ごし方』	一般社団法人毛帽子事務所 ニットキャップシアター

※各催し物に関するお問い合わせは主催者をお願いいたします。